

在スロバキア日本国大使館
政治・経済月報（2017年11月）

目 次

内 政

- ◆統一地方選挙（県知事・県議会議員選挙） 2
- ◆政党支持率調査結果 2

外 政

- ◆スロバキア外務・欧州問題省による露政府系メディアに対する抗議 3
- ◆フェレンツ副経済相の訪日 3
- ◆フィツォ首相の第6回「16+1」首脳会合出席 4

社 会

- ◆スロバキア・オーストリア国境における無作為検問の現状 . . . 4

経 済

- ◆投資インセンティブに関する改正法案の政府承認 5
- ◆パナソニックによる自動車部品生産規模拡大の計画 5
- ◆中国・大連発貨物列車のブラチスラバ到着 6
- ◆スロバキア中央銀行月報（11月） 7

別添：主要経済指標

※本月報は公開情報を在スロバキア日本国大使館がとりまとめたものです。

内 政

◆統一地方選挙（県知事・県議会議員選挙）（4日）

4日に行われた県知事選挙では、最大与党「方向-民主主義（Smer）」の支持候補は全8県のうちトルナバ県とニトラ県においてのみ当選し、4県で野党の中道右派連立（自由と連帯（SaS）、普通の人々・独立した人々（OLaNO）、キリスト教民主運動（KDH）等）候補に敗れるという予想外の結果となった。前回の選挙では連続当選を果たした現職知事が6名いたのに対し、今回の選挙では6名の新知事が選出された。ジリナ県知事に当選したユリノヴァー氏は女性としては初めての県知事である。ブラチスラバ県では、直前の世論調査では4位に過ぎなかったSaS国会議員のドロバ氏（中道右派連立による擁立）が、当選が有力視されていた無所属のフターチニク前ブラチスラバ市長を破り当選した。

最注目 của バンスカー・ビストリツァ県では、実業家で無所属のルンテル氏が48.5%という高得票率で当選した。極右政党「人民党-我々のスロバキア（LSNS）」党首を務めるコトレバ現知事は、前回選挙を下回る得票数（2万3895票。得票率は23.2%）の獲得に留まった。ニトラ県知事に立候補していたウフリークLSNS国会議員は、15.3%の得票率で3位に終わった。

県議会では、Smerの議席獲得数は3分の1減少となる88議席に留まった一方で、無所属が前回選挙の73議席から161議席と2倍以上に急増した。なお、LSNSは、県議会選挙に335人の候補者を擁立したが、当選したのはコトレバ氏（バンスカー・ビストリツァ県）とウフリーク氏（ニトラ県）の2人のみであった。

◆政党支持率調査結果（29日）

世論調査機関Focusによる11月の政党支持率調査の結果は以下のとおり（括弧内は支持率に基づいた議席数）。統一地方選挙で躍進したOLaNOの支持率が大きく伸びた一方で、連立与党（Smer, SNS, Most-Hid）の支持率は下落した。

政党	Focus	2016年選挙
Smer-SD（方向・社会民主主義）	24.8%(42)	28.3%
SaS（自由と連帯）	14.2%(24)	12.1%
OLaNO-Nova（普通の人々・独立した人達 -新たな多数派）	12.5%(21)	8.6%
Sme rodina（我々は家族）	8.5%(14)	6.6%
LSNS（我々のスロバキア）	8.4%(14)	8.0%
SNS（スロバキア国民党）	8.0%(14)	8.6%
KDH（キリスト教民主運動）	7.2%(12)	4.9%
Most-Hid（架け橋）	5.6%(9)	6.5%

外 政

◆チェコ事件を巡るスロバキア外務・欧州問題省による露政府系メディアの報道に対する抗議

【スロバキア外務・欧州問題省プレスリリース（２２日）】

スロバキア外務・欧州問題省は、１９６８年のワルシャワ条約機構軍によるチェコスロバキアへの軍事介入に関し、露メディアによる史実を捏造しようとする一連の試みを許容しない。露国防省系テレビ局Zvezdaは「チェコスロバキアは、１９６８年のプラハの春について、ソ連に感謝すべきであった」との記事をウェブサイトで公開した。ワルシャワ条約機構軍によるチェコスロバキアへの介入と軍事占領は、国際法の基本的な原則に反する恥知らずな行為であり、人権を侵害する全体主義の強化につながり、多くの人が苦痛を被った。

【２３日付スメ紙】

１４日、露国防省系テレビ局Zvezdaのマスコフスキー氏は「チェコスロバキアへの派兵は、“ビロード革命”の実現によって示されることになった西欧による国家転覆を阻止し、ワルシャワ条約機構加盟国の全ての国民の同意の下、２０年以上にわたり平和な生活を守った」との記事を同局のウェブサイトに公開した。マスコフスキー氏は、ロシアのインターネットにおいて、ソ連型社会主義システムを再建しようとして試みている人物として知られており、ソ連は民主主義的なチェコスロバキアが西欧に屈するのを阻止したと主張している。同氏の記事について、コルチョク副外務・欧州問題相は自身のTwitterに「露メディアが拡散している１９６８年のチェコスロバキア占領に関する史実の意図的な捏造及び偽情報に強く抗議する」と書き込んだ。結局、Zvezdaはウェブサイトから同記事を削除し、「同氏の個人的な考えは、同局の意見と一致していない」とのコメントを出した。

◆フェレンツ副経済相の訪日（２６～２９日：スロバキア経済省プレスリリース）

フェレンツ副経済相は、平野・経済産業大臣政務官と会談を行い、両国のビジネス関係の現状及び今後の展望につき協議を行った。フェレンツ副経済相は「日本による投資はスロバキアにとって重要である。現在コシツェで生産開始に向けた準備を行っているミネベアミツミ社との建設的な協力を評価している」と述べた。平野政務官は「スロバキアには５１社（当館注：当館の統計では５５社）の日本企業が進出しており、スロバキアが日本にとって魅力的な投資先であることを証明している」と述べた。その他、双方はスロバキアが支持しているＥＵと日本のパートナーシップ協定（当館注：日ＥＵ・ＥＰＡ及び日ＥＵ戦略的パートナーシップ協定（ＳＰＡ）を指すものと思われる）についても話

し合った。

フェレンツ副経済相は、日本企業関係者と共に、東京で行われたスロバキア投資貿易開発庁（SARIO）による投資セミナーに出席した。同セミナーの主な目的は、スロバキアにおける投資機会の紹介である。SARIOは、大阪においても、Czech Investとの共催で投資セミナーを開催した。

◆フィツォ首相の第6回「16+1」首脳会合出席（27日）

27日、フィツォ首相は、ブダペストで行われた第6回「16+1」首脳会合に出席し「パートナーシップに基づく友好的な中国との関係を築いていきたい。目標に向かって注力すれば、成果がもたらされることになる」と述べた。

フィツォ首相は、スロバキアと中国との経済関係について、両国の貿易額は堅調に成長しており貿易額は約70億ドルであること、中国から欧州への貨物列車がスロバキアを經由していることを例として挙げ、「スロバキアは、中国から欧州へ鉄道で商品を輸送するうえで、極めて重要な場所に位置している。スロバキア国内における物流ターミナルの建設を継続していくことが非常に重要である」と述べた。

フィツォ首相はまた、「スロバキアの食料品を中国市場に輸出するために、中国に対し食料品の品質に関する証明書の発行プロセスを迅速化するように要請した。中国市場において、スロバキアの高品質な食料品に対する関心が高いのは明らかである」と述べた。

同日夕刻、フィツォ首相は李克強・中国国務院総理と会談を行い、中国へのスロバキアの食料品輸出に係る証明書発行の迅速化の可能性及び中国からの鉄道輸送発展の今後の見通しについて協議を行った。フィツォ首相は会談後、「現在進行中のプロジェクトを促進するために、来年中国を訪問する」と述べた。

社 会

◆スロバキア・オーストリア国境における無作為検問の現状（21日付スメ紙）

オーストリア警察は、非合法移民を阻止することを目的としたスロバキアからの無作為検問を依然として続けている。9月初め、アヴラモプロス欧州委員（移民・内務・市民権担当）は移民危機の終結を宣言し、人の移動の自由が認められているシェンゲン圏における例外的な検問を実施している国に対して国境検問を取り止めるように要請したが、いくつかの国は部分的に国境検問を続けている。ソボトカ内務相は、10月下旬にブリュッセルで行われた閣僚級会合後に、「イタリア、ドイツ及びスロバキア国境での検問を行うことで、不法移民の大量流入を阻止する」と述べた。

スロバキア・オーストリア国境検問を担当しているのは、オーストリアの州

警察である。スロバキアと国境を接しているニーダーエスターライヒ州警察のバウムシュラガー報道官は「オーストリアがハンガリー及びスロベニア国境の検問を強化したことにより、密入国者はスロバキア及びチェコ国境を利用するようになってきている。それ故、ハンガリー及びスロベニア国境ほどではないものの、スロバキア及びチェコ国境の検問も頻繁に実施するようになった」と述べた。

（当館注：スロバキアからオーストリアへ自動車やバス等で越境する際、オーストリア当局からパスポート等の掲示を求められる可能性がある。）

経 済

◆投資インセンティブに関する改正法案の政府承認（8日付プラウダ紙電子版）

8日、スロバキア政府は投資インセンティブに関する改正法案を承認した。同法案によると、新規雇用を創出するだけの場合、製造業は投資インセンティブを受けることができなくなる。また、研究開発センターに対する投資インセンティブの申請条件が、「一定の割合の大卒従業員の雇用」から「郡の平均賃金より高い賃金の支払い」に置き換えられることになる。その他、同法案には投資計画審査の厳格化等が含まれている。

ジガ経済相によると、同法案は生産工程の自動化、サプライヤー間のネットワーク構築及び高い付加価値を伴う産業といった世界的傾向や、労働市場及び投資機会の変化に適応したものである。これにより、新規雇用創出を目的とした広範的な支援を取り止め、地域格差の是正及び研究開発の強化に伴う競争力の向上を直接支援することになる。また、中小企業が投資インセンティブを受けるうえで有利となる。

スロバキア政府は、国家歳出を抑えるために、政府による助成金ではなく、主に減税措置という形で投資インセンティブを提供することを目指している。経済省によると、減税措置による投資インセンティブは、閣議決定を経ずに経済省と財務省の合意だけで提供できるようになる。そのため、閣議決定が必要で手続きに時間がかかる政府による助成金ではなく、減税措置を申請する企業が多くなると見込まれる。

◆パナソニックによる自動車部品生産規模拡大の計画（9日付Trend誌電子版）

日本の電機メーカー「パナソニック」は、トルステナー市（スロバキア北部）にある工場の自動車部品生産を拡大する。投資規模は3000万ユーロで、工場の敷地内に約9000平方メートルの新たな製造施設を建設することになる。Panasonic Industrial Devices Slovakiaのヴォイタス社長は「生産規模の拡大は今のところ計画段階にすぎない」と述べつつ、生産される自動車部品はダイ

ムラーやBMWの自動車工場に搬入される旨付言した。

トステナー工場では、生産拡大に伴い3交代制の導入が検討されており、追加的に450人が必要となる（うち製造ラインで380人）。ヴォイタス社長は「従業員を新たに採用すると共に、自動化が進められている一部生産ラインから従業員を異動させる」と述べた。現在、Panasonic Industrial Devices Slovakia社は、トステナー工場で1000人以上を雇用しており、スタラー・リュボウニャ市（北東スロバキア）の工場では600人以上を雇用している。

◆中国・大連発貨物列車のブラチスラバ到着（14日付プラウダ紙）

13日、中国・大連発の貨物列車が初めてブラチスラバに到着した。中国発の貨物列車は1万1000キロの距離を17日かけて到着したが、この所要日数は海路の半分である。スロバキアまで運ばれた商品は、鉄道又はトラックで中欧の顧客に搬送されることになる。今回ブラチスラバに到着した商品は、サムスのガランタ工場でテレビ製造に使用される部品、衣服、履物及び玩具等である。大連発ブラチスラバ行き貨物列車は、2018年上半期から週に1回、2018年下半期以降は週2回運行される予定である。交通・建設省によると、大連の他にも複数の中国の省及び都市が、スロバキアを経由する商品輸送に関心を持っている。中国通信交通協会は、2018年にスロバキアを経由する欧州行き貨物列車を約500本運行することを計画している。2020年には、5000本の欧州行き貨物列車の運行が計画されているが、そのうち約2000本がスロバキアを経由する予定である。

メアゲル副財務相は「近いうちに、世界税関機構における法規制が定められ、国内法に反映されることになると確信している。税関が省略され、貨物車両に電子ロックが装着されることになれば、中国からスロバキアまでの所要日数が6日間にまで短縮される」と述べると共に、「中国はEUの製品を渴望している。スロバキアは新シルクロードを活用した輸出を行い、自動車生産規模を拡大させることができるかもしれない」と述べた。フォルクスワーゲン（VW）のブラチスラバ工場で生産された自動車は、中国にも輸出されている。

他方で、中国が世界中の鉄道や港を買収して、欧州の輸送業者圧力をかけるのではないかと懸念する声も上がっている。スロバキアやチェコ政府が中国とのビジネスを支援している一方で、英国を除く西欧諸国、中でもドイツは、中国が所有する鉄道路線において全ての貨物輸送が平等に取り扱われる保証がない旨指摘している。これに対し、中国は、貨物輸送は自由貿易の原則に沿って行われると反論している。

◆スロバキア中央銀行月報（11月）

1 GDP

第3四半期における外需は好ましい傾向を維持している。欧州統計局の速報値によると、ユーロ圏の経済成長は比較的堅調（前期比0.6%増）であり、主に輸出が牽引役と見られる。

スロバキア統計局の速報値によると、第3四半期におけるスロバキアGDPは前年同期比で3.3%、前期比では0.8%それぞれ成長したが、ともに第2四半期の伸び率をやや下回った。

2 労働市場

スロバキア統計局の速報値によると、第3四半期の雇用率は前年同期比で2.3%、前期比では0.6%それぞれ上昇した。製造業はほぼ全ての部門で雇用率が大幅に上昇し、中でも自動車産業が最も高い伸び率（前年同期比8%）を示した。労働需要の一部は外国人労働者で埋め合わされている（雇用者数の前年同期比増加分のうち、約22%が外国人労働者）。

10月の失業者数は前月比約5,900人減少し、季節調整前の登録ベースでの失業率は前月比で0.28%下落し6.14%となった。

9月の平均賃金は前年同期比3.8%の上昇となったが、4.7%上昇した8月と比べると停滞した。停滞の一因として、9月は祝日が2日設定されており、小売業従事者は法律上祝日の労働が禁じられているため、賃金を得る機会が少なかったことが挙げられる。9月の平均賃金は905.3ユーロであった。

3 物価

10月の消費者物価指数は前月と同様、前年同期比で1.8%上昇した。物価上昇に対する加工食品の影響が顕著であり、中でも油脂類が前年同期比2.1%、牛乳及び乳製品が8%それぞれ上昇した。

現在の傾向と食料品価格がインフレ見通しに与えるアップサイドリスクを考慮すると、2017年の平均消費者物価指数は第3四半期予測よりもわずかに高くなると見られる。

4 貿易

月次の暫定データによると、第3四半期の輸出は緩やかな回復基調にあるものの、輸入増加率は依然として高く、純輸出が経済成長の足を引っ張る可能性がある。

9月の商品輸出は前年同期比で5.8%、輸入は7.3%それぞれ増加した。貿易黒字は2億5700万ユーロであった。

スロバキア主要経済指標

(出典:スロバキア統計局)

